



【Microsoft Copilot】 サービス概要

2025年8月30日

改訂履歴

版数	発行日	改訂内容
第1版	2025年8月30日	初版発行

本資料の内容は 2025/8/30 時点のものです。製品のアップデートにより変更となる場合がございます旨ご了承ください。

Agenda

1. 前提情報
 1. 用語集
2. Microsoft Copilot とは
 1. Microsoft Copilot とは
 2. Microsoft Copilot の種類と活用例
 3. Microsoft Copilot の導入効果
3. 構成と動作フロー
 1. Microsoft Copilot 全体の構成概要
 2. 動作フロー
 3. セキュリティ・プライバシー（ユーザー操作時の制御機能）
 4. セキュリティ・プライバシー（管理機能）
4. ライセンス
 1. ライセンス概要
 2. Microsoft 365 Copilot ライセンス
 3. Microsoft Copilot Studio ライセンス
 4. Microsoft Security Copilot ライセンス
 5. Microsoft Copilot in Azure ライセンス（プレビュー）
5. Microsoft Copilot 製品別の活用方法
 1. Microsoft Copilot 製品別の活用方法
 2. シナリオ① Microsoft 365 Copilot
 3. シナリオ② Microsoft Copilot Studio
 4. シナリオ③ Microsoft Security Copilot
 5. シナリオ④ Microsoft Copilot in Azure



1. 前提情報

1.1. 用語集

本書で使用する用語及び略称を以下の通り定義します。

No.	用語	説明
1	生成 AI	人間の言語や画像、音声などを理解・生成する AI 技術の総称。大規模言語モデル（LLM）や画像生成モデルなどが含まれ、Copilot では主に自然言語による文章生成や提案に活用される。
2	Power Platform	業務アプリ開発・自動化・分析の統合サービス群。 Power Apps、Power Automate、Power BI などを含む。
3	ノーコード開発	プログラミング不要で GUI 操作によりアプリや業務フローを構築できる開発手法。
4	PoC（概念実証）	新技術や仕組みの有効性を小規模に検証するプロセス。Copilot 導入前の試験運用などに活用される。
5	GUI（Graphical User Interface）	画面上のボタンやアイコンを使って、視覚的・直感的に操作できる管理画面のこと。
6	Azure OpenAI Service	Microsoft Azure 上で提供される OpenAI モデルのサービス。 大規模言語モデルをクラウド環境で利用可能。
7	Microsoft Purview	Microsoft の情報ガバナンス・コンプライアンス管理ツール。 DLP、情報保護ラベル、監査ログなどを一元管理できる。

1.1. 用語集

本書で使用する用語及び略称を以下の通り定義します。

No.	用語	説明
8	Dataverse	Power Platform で利用されるクラウドベースのデータ管理サービス。構造化データを安全に保存・活用できる。
9	データ損失防止 (DLP) ポリシー	機密情報の漏洩を防ぐための制御ポリシー。Copilot の出力にも適用可能。
10	情報保護ラベル	機密性に応じて文書やメールに分類・暗号化・制限を加えるラベル。Microsoft Purview で設定可能。
11	ロールベースアクセス制御 (RBAC)	ユーザーの役割に応じてアクセス権限を制御する仕組み。Copilot の管理やデータ利用に活用される。
12	条件付きアクセス	ユーザーの状況 (場所、デバイス、リスクなど) に応じてアクセスを制御するセキュリティ機能。Entra ID で設定可能。
13	Azure ポータル	Microsoft Azure の各種サービスを管理・構成するための Web ベースの管理ポータル。
14	脅威インテリジェンス	外部の脅威情報を収集・分析し、セキュリティ対策に活用する仕組み。Security Copilot で利用される。

1.1. 用語集

本書で使用する用語及び略称を以下の通り定義します。

No.	用語	説明
15	Azure Resource Manager	Azure のインフラ全体を管理・デプロイするためのフレームワーク。 仮想マシン、ネットワーク、ストレージなどのリソースをコードとして管理し、構成の自動化や一貫性のある運用を実現する。
16	Azure サブスクリプション	Azure サービスを利用するための契約単位。Copilot for Azure や Copilot Studio の利用に必要。
17	SOC	Security Operations Center の略。 企業のセキュリティ監視・対応を担う専門チームであり、Security Copilot の主な利用者。
18	Azure CLI	Azure 環境を操作するためのコマンドラインツール。 Copilot for Azure と連携して構成変更などを実行可能。
19	Azure Policy	Azure リソースの構成ルールを定義・強制する仕組み。Copilot for Azure の提案内容に適用可能。
20	Planner	Microsoft 365 のタスク管理ツール。 Copilot が抽出したアクションアイテムを登録・共有する際に利用される。

1.1. 用語集

本書で使用する用語及び略称を以下の通り定義します。

No.	用語	説明
21	Azure Resource Graph	Azure に存在する仮想マシンやネットワークなどのリソース情報を、横断的に検索・分析できる仕組み。複数のサービスをまたいで利用可能。
22	Azure Monitor	Azure 上のリソースやアプリケーションのパフォーマンスを監視するサービス。ログ収集、メトリクス分析、アラート通知などの機能を提供する。
23	エージェント	特定のタスクを自動で実行する仕組みやプログラム。Copilot Studio で GUI で作成でき、IT・人事などの問い合わせを自動応答することで、ユーザーの利便性向上と業務負荷の軽減を実現する。
24	プロンプト	AI に「何をしてほしいか」を伝えるための入力文。Copilot では、ユーザーが自然な言葉で入力する内容がプロンプトになる。
25	マネージド環境	Microsoft が提供する、セキュリティやライセンス管理が整備された Power Platform の運用環境。Copilot Studio の運用に推奨される。マネージド環境を有効化しても一般ユーザーの操作画面は大きく変わらないが、管理者向けの管理センターでは制御項目やレポート機能が追加され、利用状況の把握やポリシー管理が容易になる。



2. Microsoft Copilot とは

2.1. Microsoft Copilot とは

Microsoft Copilot（以下、Copilot）は、Microsoft が提供する生成 AI を活用した業務支援ツール群です。近年、業務の効率化や生産性向上を目的として、AI による支援の需要が高まっています。特に生成 AI は、単なる検索や自動化に加えて、業務プロセスを主体的に提案する存在として期待されています。

Copilot は、Microsoft 365 や Power Platform、Azure などの各種サービスと連携し、ユーザーが日常的に利用するアプリケーション内で動作します。また、Microsoft Graph を通じて組織内データ（メール、Teams、SharePoint など）にアクセスし、組織固有のデータに基づいた回答を生成できることが特長です。これにより、利用者は自分の組織に最適化された AI を活用でき、適切な支援を受けながら従来の情報探索や資料作成にかかる時間を短縮することができます。

Microsoft Copilot の利用目的

■ 時間削減

日常的な作業（文書作成、会議の要約など）を自動化・簡略化することで、利用者が本来のコア業務に充てる時間を確保します。

例：会議の議事録を自動生成して共有し、繰り返し作業を削減

■ 意思決定の高度化

膨大なデータから有益な情報を抽出し、分かりやすく提示することで、より迅速で正確な意思決定を支援します。

例：売上データの傾向分析、顧客対応履歴を基にした最適提案

■ 業務プロセスの最適化

組織の既存のワークフローに組み込まれるため、利用者はこれまでの仕事の流れを大きく変えずに AI の支援を受けることができます。これにより、部門間の情報共有や業務標準化が促進され、業務効率と一貫性が高まります。

例：プロジェクト進捗の自動整理、タスク割り当て提案

■ 創造性の支援

資料作成やコンテンツ生成において、アイデアの出発点や補完役として機能し、新しい発想を支援します。

例：企画書のアイデア出し、スケジュールなどのプランニング

Microsoft Graph とは

Microsoft 365 のデータ連携基盤です。メール、予定表、Teams、ファイルなどの情報を統合し、アプリやサービスが業務文脈を理解できるようにするもので、Copilot において Microsoft 365 のデータにアクセスする際に使用されます。

※Copilot が Microsoft Graph を通じてデータにアクセスするには管理者によるスコープ設定（アプリケーションに対して、どのデータへのアクセスを許可するかを明示的に指定する設定）が必要です。スコープは既定では設定されていません。設定がない場合は Copilot が必要な情報にアクセスできず、要約や提案などの機能が制限される可能性があります。

2.2. Microsoft Copilot の種類と活用例

Copilot は、利用する製品や業務領域に応じた複数の種類が用意されています。

以下に、代表的な Copilot 製品を統合されるサービス別にまとめ、それぞれどのように業務へ活用できるかを整理します。

主な Copilot の種類と活用例

統合サービス	Copilot 製品名	機能・活用例
Microsoft 365	Microsoft 365 Copilot	Word、Excel、Outlook、Teams などでの文章生成、要約、分析、資料作成支援
Microsoft Dynamics 365	Microsoft Dynamics 365 Copilot	営業活動、顧客対応、マーケティングなどの業務における、社内情報の統合管理支援
Microsoft Edge	Microsoft Copilot in Edge	Web ページの要約、検索支援
Microsoft Azure	Microsoft Copilot in Azure	Azure ポータルでのリソース操作、構成提案、スクリプト生成
Microsoft Power Platform	Copilot in Power Platform	Power Apps、Power Automate、Power BI などでのノーコード開発支援
	Microsoft Copilot Studio	カスタム AI エージェントの作成、業務フローの自動化、社内 Bot の構築
GitHub	GitHub Copilot	コード補完、関数生成、エラー修正、ドキュメント作成支援
Microsoft Security	Microsoft Security Copilot	インシデント分析、脅威ハンティング、レポート作成支援

2.3. Microsoft Copilot の導入効果

Copilot は業務効率化に効果的ですが、単に導入するだけでは十分に活用できません。複数の種類から組織の用途に合った Copilot を選ぶこと、そしてメリットと注意点を正しく理解したうえで運用することが重要です。本章では、Copilot がもたらす代表的なメリットとあわせて、導入に際して押さえておくべき留意点について整理します。

メリット

■生産性の向上

・個人の業務効率化に加え、部門間での情報共有やナレッジ活用が進むことで、組織全体の生産性向上が期待できます。

■スモールスタートが可能

・PoC から段階的に導入できるため、初期導入のハードルが低く、利用状況を見ながら全社展開へと拡大できます。

■既存システムとの統合性

・Microsoft 365、Power Platform、Azure など既存のシステムと連携できるため、業務フローを大きく変える必要がなく、導入がスムーズです。

注意点

■データ品質への依存

・AI の出力精度は、入力されるデータの質に依存します。誤ったデータが含まれると、誤った提案を導くリスクがあります。

■利用ポリシーの整備

・利用目的や範囲を明確に定めたポリシーを整備しなければ、社内ガイドライン違反や情報漏洩などのリスクにつながることがあります。

■利用者のリテラシー

・AI を活用するには、利用者の理解と適切な使い方が不可欠であるため、教育や検証プロセスが必須となります。

■コスト管理

・利用が進むにつれ、ライセンス費用や従量課金によるコストが継続的に発生します。利用状況に応じた適切なコスト管理が必要です。



3. 構成と動作フロー

3.1. Microsoft Copilot 全体の構成概要

Copilot は、各製品に共通する技術基盤として、大規模言語モデル (LLM) 、アプリケーション統合、Microsoft クラウドのセキュリティ・ガバナンスを備えています。これらの要素が連携することで、単なる生成 AI ではなく、業務文脈に即した実務的な支援を実現します。

主な構成要素

■ 大規模言語モデル (Large Language Model)

Copilotの基盤となる大規模言語モデル (LLM) は、人間の言語を理解し生成するために数十億~数千億のパラメータで訓練された AI モデルです。従来の検索やルールベースの仕組みとは異なり、膨大なデータセットから学習した知識を活用して推論や自然な文章生成を行います。また、LLM は Azure OpenAI Service 上で動作し、クラウド環境を通じて常に最新のモデルを利用できます。

■ アプリケーション統合

Copilot は、各 Microsoft 製品の業務アプリケーションとネイティブに統合されています。ユーザーは新しいツールを習得する必要がなく、これまでと同じ業務環境の中で Copilot を利用し AI による支援を受けることができます。

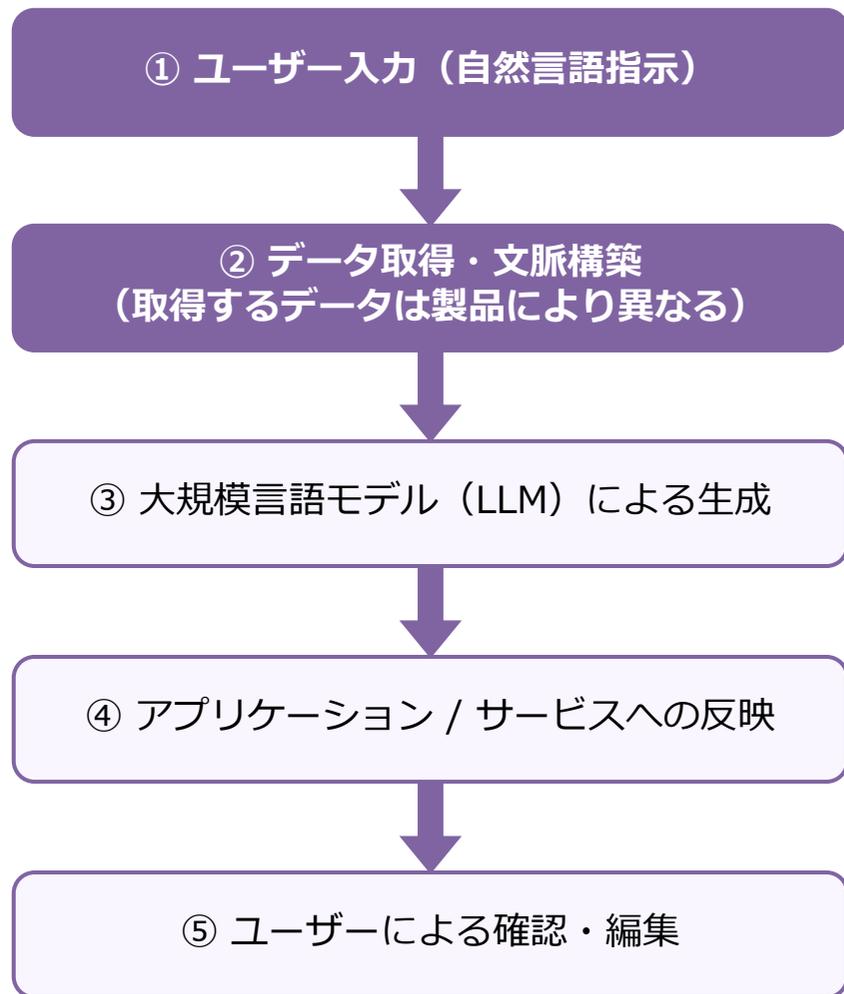
■ セキュリティ・ガバナンス (Microsoft Cloud 基盤)

Copilot は Microsoft のクラウド基盤上で動作しており、企業利用に必要なセキュリティとガバナンス機能を備えています。データ保護、アクセス制御、コンプライアンス対応、監査機能が標準で組み込まれており、安全かつ信頼性の高い AI 活用を実現します。

- データ保護、アクセス制御：Microsoft Purview や Entra ID などのサービスと連携し、ユーザーやデータのアクセス権限を管理できる
- コンプライアンス対応：業界標準や地域ごとの法規制に準拠した設計がされており、企業の情報管理ポリシーに沿った運用が可能
- 監査機能：Copilot の利用状況や出力内容はログとして記録され、AI の利用に対する透明性と説明責任が確保される

3.2. 動作フロー

Copilot は、ユーザーの自然言語による指示をもとに、関連データを取得・理解し、AI による生成を経て、アプリケーション上に結果を返します。以下は、Copilot 製品全体に共通する基本的な動作フローです。



① ユーザー入力 (自然言語指示)

ユーザーは、各 Microsoft 製品の業務アプリケーション上で、自然言語で質問や指示を入力します。

例：「会議用の資料を作成してください」「売上データを分析してください」「顧客情報を表示してください」など

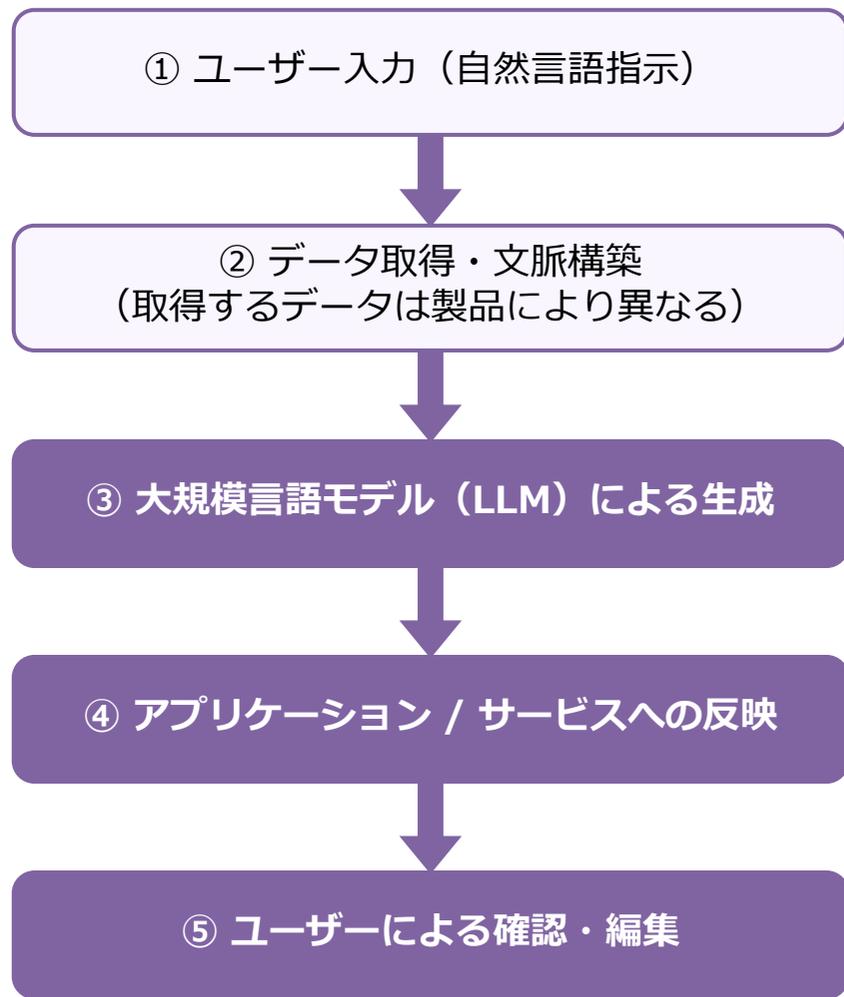
② データ取得・文脈構築

Copilot は、指示の内容を理解するために必要なデータを取得し、文脈を構築します。取得するデータは製品ごとに異なります。

【製品別のデータ取得例】

- ・ Microsoft 365 Copilot : Microsoft Graph 経由で、メール、予定表、Teams、ファイルなどのデータ
- ・ Microsoft Copilot Studio : ユーザーが接続した任意のデータソース (Dataverse、SharePoint、API など)
- ・ Microsoft Security Copilot : Microsoft Defender、Intune、社内ナレッジベース (Wiki、ポリシー文書、対応手順など)
- ・ Microsoft Copilot in Azure : Azure Resource Graph、Azure Monitor、サービス構成情報、コスト・セキュリティ・パフォーマンス関連のメトリクスなど

3.2. 動作フロー



③ 大規模言語モデル (LLM) による生成

構築された文脈をもとに、LLM が自然言語で適切な提案や文章を生成します。

- ・ 文書やメールの下書き生成
- ・ データ分析結果の要約や提案
- ・ 業務フローに沿ったタスクの提示

単純な文章生成に加えて、分析結果の要約や意思決定の補助など、業務に即した応答が可能です。ユーザーの意図や業務背景に応じた内容が生成されます。

④ アプリケーション / サービスへの反映

生成された結果は、ユーザーが利用しているアプリケーション上に直接反映されます。
例：Word / Excel / Teams / Power Platform / Microsoft Defender / Azure など

⑤ ユーザーによる確認・編集

ユーザーは Copilot からの提案を確認し、必要に応じて修正・編集を行い、業務に活用します。

3.3. セキュリティ・プライバシー（ユーザー操作時の制御機能）

Copilot は Microsoft 365 のセキュリティ基盤に基づいて設計・運用されており、ユーザーのデータを安全に処理しプライバシーを保護するための仕組みが整備されています。

基本方針

- ゼロトラストアーキテクチャの採用：ユーザー、デバイス、アプリケーションの信頼性を常に検証し、アクセスを制御
- アクセス権に基づくデータ利用：Copilot はユーザーがアクセス権を持つデータのみアクセス
- セキュリティ・プライバシー・ガバナンスの統合：Microsoft Purview などのツールと連携し、統合的な管理を実現

データ処理とプライバシー保護

■ ユーザーデータの処理方法

Copilot に入力されたコンテンツは Microsoft が企業向けに提供するクラウドサービスの運用基盤（Microsoft 365、Azure、Power Platform などのテナント環境）内で処理され、生成されたコンテンツとしてユーザーに返されます。

※ユーザーデータは AI モデルの学習目的には使用されません。

※データはテナント（組織）単位で分離・制限されており、他の組織からアクセスされることはありません。

■ データ保持とログ管理

ユーザーの操作情報は Microsoft 365 環境内に限定され、操作ログは監査ログとして記録されます。

管理者は Microsoft Purview を通じて確認・制御可能です。

■ プライバシー保護機能

個人を特定できる情報の検出・マスキング機能を備え、データ損失防止（DLP）ポリシーと連携して不適切な情報共有を防止します。

3.4. セキュリティ・プライバシー（管理機能）

Copilot は、Microsoft 365 全体にまたがる製品群を対象に、IT 管理者による横断的な管理と運用が可能です。Microsoft は、Copilot の安全な導入・運用・ガバナンスを支援するための統合的な管理フレームワークとして Copilot Control System (CCS) を定義しています。

Copilot Control System (CCS) とは

Copilot Control System (CCS) は、Copilot 製品の管理・運用・ガバナンスを支援する Microsoft の統合フレームワークです。CCS は専用の管理画面を持つわけではなく、Microsoft Purview、Entra ID、Defender、Microsoft 365 管理センターなどの既存の Microsoft 管理ツールが連携して構成されます。管理者は、目的に応じてこれらのツールを使い分けながら、セキュリティ、プライバシー、利用状況の可視化などを統合的に実施します。

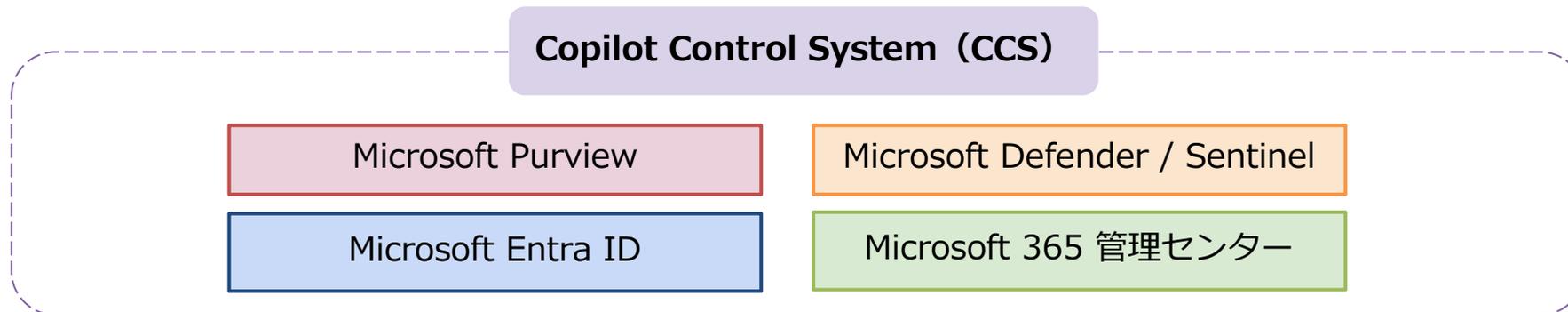
注意点

- ・ CCS は単一の管理画面ではなく、**複数のツールを連携して構成される枠組み**です。
- ・ 管理者は Copilot の安全な運用のために、目的に応じて**複数の管理ツールを使い分ける必要があります**。

3.4. セキュリティ・プライバシー（管理機能）

Copilot Control System（CCS）は、主に以下の Microsoft ツール群によって構成されます。

管理者は目的に応じてこれらを使い分けながら、Copilot の利用状況とそれに伴って扱われるユーザーデータや業務アプリケーションに対して、セキュリティ・プライバシー・運用管理を統合的に実施します。



CCS を構成する主な Microsoft ツール

管理ツール	提供される情報・制御機能
Microsoft Purview	情報保護ラベル、データ損失防止（DLP）ポリシー、データ分類、監査ログなどの データガバナンス管理
Microsoft Entra ID	ユーザー認証、ロールベースアクセス制御（RBAC）、条件付きアクセスなどの ID・アクセス管理
Microsoft Defender / Sentinel	脅威検知、脅威インテリジェンス、インシデント対応などの セキュリティイベント情報
Microsoft 365 管理センター	Copilot の ライセンス管理 、利用状況レポート、 アクティビティログの可視化



4. ライセンス

4.1. ライセンス概要

Copilot 製品群は、単一のライセンスで一括利用できるわけではなく、各サービス・用途に応じたライセンス体系が設計されています。多くの Copilot は、既存の Microsoft サービスにアドオンとして提供されており、利用には該当する前提ライセンスが必要です。また、課金モデルは製品ごとに異なり、基本的にはユーザー単位の月額課金ですが、一部の製品では従量課金が採用されています。Copilot 全体のライセンス形態は「前提ライセンス+アドオン課金+一部従量課金」の組み合わせで設計されており、組織の導入計画に応じて柔軟に調整できることが特徴です。

主な Copilot 製品のライセンス例

製品名	提供形態	前提ライセンス / サブスクリプション	課金モデル
Microsoft 365 Copilot	Microsoft 365 アプリケーションへのアドオン	Microsoft 365 E3/E5、Business Standard/Premium など	ユーザー単位、月額課金
Microsoft Copilot Studio	Power Platform 上でのカスタム AI 作成ツール	Power Platform の基本機能を含むライセンス (Microsoft 365 E3/E5、Business Standard/Premium など) + Azure サブスクリプション ※Copilot Studio や Power Platform の一部機能 (メッセージ処理、生成AI機能など) は Azure リソースを利用するため、請求の窓口として Azure サブスクリプションが必要となります。	ユーザー単位、従量課金 (メッセージ消費)
Microsoft Security Copilot	Microsoft Defender / Sentinel 環境へのアドオンとして提供	Microsoft Defender / Sentinel などのセキュリティ製品 + Azure サブスクリプション	テナント単位、従量課金
Microsoft Copilot in Azure	Azure ポータル上でのリソース管理支援機能として提供	Azure サブスクリプション	従量課金 (利用リソースに応じて変動)

4.2. Microsoft 365 Copilot ライセンス

主なライセンス仕様

項目	Microsoft 365 Copilot アドオン
課金単位	ユーザー単位
含まれる機能	Word, Excel, PowerPoint, Outlook, Teams での Copilot 機能
生成 AI	可能
Microsoft Graph 連携	可能（メール、予定表、ファイル、チャットなど）
独自のエージェント作成	✕ 利用不可（Copilot Studio と併用で可能）
Power Automate 連携	一部可能（Teams メッセージの自動化など）
管理機能	Microsoft 365 管理センター、Microsoft Purview、Entra ID で制御
利用対象	Microsoft 365 E3/E5、Business Standard/Premium ユーザー など ※上記に加え、Business Basic や F3、Office 365 E1/E3/E5、教育機関向けプランなどでも利用可能ですが、一部機能や管理面に制約がある場合があります。

※ライセンスや価格の詳細は、[Microsoft 公式サイト](#)をご確認ください。

ライセンス運用上のポイント

- ・ユーザー単位のライセンスのため、利用者を明確に選定する必要があります。
- ・Office 365 プランのみでは利用できません。Microsoft 365 の対象プランが前提です。
- ・利用できる Copilot 機能は、ユーザーがアクセス権を持つデータに限定されます（Microsoft Graph 経由）。
- ・セキュリティ・コンプライアンス設定（Microsoft Purview、Entra ID）と連携することで、Copilot の動作範囲を制御可能です。

4.3. Microsoft Copilot Studio ライセンス

主なライセンス仕様

項目	Microsoft Copilot Studio 月額制	Microsoft Copilot Studio 従量課金
課金単位	テナント単位（固定メッセージ数）	メッセージ単位（使用量に応じて課金）
含まれる機能	エージェント作成、Power Automate連携（クラウドフロー含む）、Dataverse、各種コネクタ、チャンネル公開	エージェント作成、Dataverse、各種コネクタ、チャンネル公開（クラウドフロー対象外）
メッセージ数	25,000メッセージ	従量制（使用量に応じて課金）
生成 AI	可能（Azure OpenAI ベース）	可能（Azure OpenAI ベース）
独自のエージェント作成	可能	可能
Power Automate 連携	可能（クラウドフロー含む）	✕ 利用不可（クラウドフロー対象外）
管理機能	Power Platform 管理センター	同左
利用対象	中～大規模利用	PoC、小規模利用向け

※ライセンスや価格の詳細は、[Microsoft 公式サイト](#)をご確認ください。

ライセンス運用上のポイント

- ・月額制は固定費で予算管理しやすく、環境単位での運用に適しています。
- ・従量課金では Power Automate のクラウドフロー（ユーザーの操作や入力をきっかけに、メール送信やデータ登録などの一連の処理を自動化する仕組み）との連携が利用不可のため、こうした外部サービスとの自動連携を含む業務処理には月額制ライセンスが必要です。
- ・Power Platform 環境が前提となるため、環境の有効化と管理者権限の確認が必須です。

4.4. Microsoft Security Copilot ライセンス

主なライセンス仕様

項目	Security Compute Unit (SCU)
課金単位	テナント単位 (SCU単位で利用時間に応じて課金)
含まれる機能	Defender / Sentinel 連携、アラート要約、攻撃分析、自然言語検索
生成 AI	可能
独自のプロンプト作成	可能
Microsoft Graph 連携	一部対応 (ユーザー情報、ログなど)
管理機能	Microsoft Defender ポータル、Sentinel、Entra ID
利用対象	SOC チーム、セキュリティ管理者

※ライセンスや価格の詳細は、[Microsoft 公式サイト](#)をご確認ください。

ライセンス運用上のポイント

- Microsoft Security Copilot のライセンスは「Security Compute Unit (SCU)」として提供されます。
- 「Security Compute Unit (SCU)」という処理能力単位で課金され利用時間に応じてコストが発生するため、常時稼働にはコスト管理が重要です。
- Defender や Sentinel との連携が前提であり、既存のセキュリティ運用との統合が必要です。
- SOC チーム向けに設計されており、アラート要約や攻撃分析を自然言語で実行可能です。

4.5. Microsoft Copilot in Azure ライセンス (プレビュー)

主なライセンス仕様

項目	Microsoft Copilot in Azure (プレビュー)
課金単位	利用ベース (将来的に変更の可能性あり)
含まれる機能	リソース構成提案、コスト分析、自然言語操作
生成 AI	可能 (Azure OpenAI ベース)
Azure CLI 連携	可能
コスト最適化提案	可能
管理機能	Azure ポータル、Azure Policy、Entra ID
利用対象	Azure 管理者、開発者、インフラ担当者

※ライセンスや価格の詳細は、[Microsoft 公式サイト](#)をご確認ください。

ライセンス運用上のポイント

- ・現在はプレビュー版のため無料で利用可能です。正式提供時には課金モデルが導入される可能性があります。
- ・Azure ポータルや CLI との連携により、自然言語でのリソース構成・デプロイが可能です。
- ・コスト分析や最適化提案を通じて、運用コストの削減が可能です。
- ・利用には Azure サブスクリプションが必要であり、Entra ID によるユーザー管理が前提となります。



5. Microsoft Copilot 製品別の活用方法

5.1. Microsoft Copilot 製品別の活用方法

本章では、Copilot 製品の活用イメージを持っていただくことを目的に、代表的な活用シナリオを製品別にご紹介します。

No.	製品名	シナリオ	活用ポイント
1	Microsoft 365 Copilot	Teams 会議の要約とアクション抽出	会議の内容を自動で要約し、ToDo やフォローアップを抽出。会議後の業務を効率化。
2	Microsoft Copilot Studio	社内問い合わせ対応 Bot の構築	IT や人事などの問い合わせを自動応答するエージェントを GUI で構築。業務負荷を軽減。
3	Microsoft Security Copilot	インシデントの要約と初期対応支援	Defender や Sentinel のアラートを要約し、対応方針を提案。SOC の対応速度を向上。
4	Microsoft Copilot in Azure	リソース構成の提案	仮想マシンやネットワークの構成を自然言語で設計・デプロイ。インフラ管理を効率化。

5.2. シナリオ① Microsoft 365 Copilot

概要

Teams 会議の内容を自動で要約し、議事録や ToDo リストとして整理・共有することで、会議後の業務整理を効率化。

構成

■ 収集データ

- ・ Teams 会議の音声、チャット、ファイル共有履歴
- ・ Outlook 予定表

■ 利用環境

- ・ Microsoft 365 テナント環境
- ・ Microsoft Graph 権限による Copilot のデータアクセス

■ ライセンス要件

- ・ 前提ライセンス : Microsoft 365 E3 / E5 または Business Standard / Premium
- ・ Copilot ライセンス : Microsoft 365 Copilot アドオン (ユーザー単位)

要件

- ・ Microsoft Teams 会議の設定で「トランスクリプト (文字起こし)」を有効化
- ・ Microsoft 365 Copilot ライセンスの付与
- ・ Planner や Outlook との連携によるアクション管理

活用方法

- ・ 会議終了後、Copilot が議事録を自動生成し、重要な発言や決定事項が整理される
- ・ 会議中に出た ToDo 事項は、Planner に登録され担当者に割り当てられる
- ・ 必要に応じて、要約された要点などが関係者に Outlook で自動送信される



Teams



① Teams 会議中にチャットで Copilot へ指示
例 : 「この会議の要点を要約して」
「次の ToDo を抽出して」



Microsoft 365 Copilot

② 議事録と ToDo を自動生成
- 議事録 : Microsoft Graphを通じてTeams会議の音声やチャット、Outlook予定表などのデータに安全にアクセスし、が会議の要点、決定事項、発言者などを整理
- ToDo : アクションアイテムや担当者を抽出



Planner



Outlook

③ 各ツールへの自動連携
- Planner : ToDo を自動でタスクとして登録・担当者に割り当て
- Outlook : 議事録をメールで関係者に自動送信

5.3. シナリオ② Microsoft Copilot Studio

概要

IT や人事などの社内問い合わせに対応する**チャット Bot を GUI で構築**し、Teams や Power Apps に公開することで業務を効率化。

構成

■ 収集データ

- ・ 社内 FAQ (SharePoint、Excel、Dataverse)
- ・ ユーザーの問い合わせ履歴

■ 利用環境

- ・ Power Platform 管理センター
- ・ 公開する環境 : Teams、Power Apps など

■ ライセンス要件

- ・ 前提ライセンス : Power Platform 環境 + Azure サブスクリプション
- ・ Copilot ライセンス : Copilot Studio ライセンス (月額制 or 従量課金)

要件

- ・ Power Platform 環境 (マネージド環境推奨)
※本シナリオのように本格的な社内運用を行う場合は、マネージド環境の利用が推奨されます。マネージド環境の利用には、有償コネクタを含む Power Platform の上位ライセンスが必要となります。
- ・ FAQ データの整備 (SharePoint、Excel、Dataverse など)
- ・ Teams や Power Apps などとの連携

活用方法

- ・ IT 部門がヘルプデスク Bot を構築し、パスワードリセットやソフトウェア申請を自動化
- ・ 問い合わせ入力時に、操作手順や判断フローを Bot が提示することで、問い合わせに対応する部門が入社手続きや福利厚生案内を Bot で対応できるようになる
- ・ 問い合わせ履歴を分析し、FAQ を継続的に改善



Microsoft Copilot Studio



Teams



Power Apps



① Bot を構築

SharePoint、Excel、Dataverse などチャット Bot が回答するためのデータ (社内 FAQ データ) を準備し、Copilot Studio を使ってチャット Bot を構築



② Teams や Power Apps へ公開

構築したチャット Bot をユーザーが利用できるプラットフォームに公開



③ ユーザーからの問い合わせに対応

ユーザーは Bot に質問を投げかけ、Bot が FAQ データに基づき回答を提示
対応できなかった質問などを分析し、①の FAQ データを継続的に改善して Bot の回答精度向上につなげる

5.4. シナリオ③ Microsoft Security Copilot

概要

Security Copilot が Microsoft Defender や Microsoft Sentinel のアラートを要約し、対応方針を提案。SOC チームの初動対応が支援される。

構成

■ 収集するデータ

- Defender アラート（マルウェア、異常通信など）
- Sentinel のログ分析結果
- Entra ID の認証情報、ユーザー行動ログ

■ 利用環境

- Log Analytics ワークスペース
- Microsoft Sentinel + Security Copilot

■ ライセンス要件

- 前提ライセンス : Azure サブスクリプション + Defender / Sentinel
- Copilot ライセンス : Security Compute Unit (SCU) ライセンス

要件

- Defender for Endpoint / Sentinelの導入
- SOC 運用体制の構築

活用方法

- Defender や Sentinel のアラートを Security Copilot が要約し、対応方針案を提示
- 類似インシデントの履歴を検索し、対応手順を提案
- 提案された対応手順に従い、SOC チームが初動対応を実施
- 対応履歴からパターンを抽出し、今後の改善提案に活用



5.5. シナリオ④ Microsoft Copilot in Azure

概要

自然言語による指示に基づき **Azure リソース構成やコスト最適化が提案**され、ユーザーの Azure 環境へのデプロイ作業が支援される。

構成

■ 収集するデータ

- Azure リソースの構成情報（仮想マシン、仮想ネットワーク、ストレージ）
- 過去のデプロイ履歴、ログ分析情報、使用状況データ

■ 利用環境

- Azure ポータル
- Copilot in Azure 専用 UI（プレビュー版）：
Azure ポータル内に組み込まれた、Copilotと対話するためのチャット機能

■ ライセンス要件

- 前提ライセンス：Azure サブスクリプション
- Copilot ライセンス：Copilot in Azure ライセンス（現在はプレビュー版のため無料）

要件

- Azure サブスクリプションの契約
- リソース管理ポリシーの整備
- コスト管理の仕組み

活用方法

- ユーザーが自然言語で構成指示を入力
- Copilot が構成案を提示
- 提示された構成案をもとに、Azure 環境に構成を適用
- コスト最適化の提案を受け、新規リソースの準備や不要なリソースの削除など調整を実施



Azure ポータル

① Azure ポータルからチャットで Copilot へ指示

例：「仮想マシンをデプロイするための構成案を提示して」

「コストを見直して」



Microsoft Copilot in Azure

② 構成やコスト最適化の提案
最適な Azure リソース構成案やコスト最適化を提案



③ 環境への適用

提示された構成案を確認し、Azure 環境に適用

コスト最適化の提案や、不要なリソースの削除など、環境の調整を実行